

# ☆ 平 柔 通 信 ☆

平塚柔道協会発行  
責任者 会長 奥山晴治

## ～有名柔道家に学ぶ～ 柔道・そして人生についての考え

先月は「柔道を学ぶ意味について」説明しました。今回は、五輪チャンピオン等、かつての名選手から現役選手の名言を紹介し、柔道への取組姿勢や柔道を通じてどう生きるべきか等について、自分なりに考えてみよう！

**山下泰裕(全柔連会長・全日本9連覇・ロス五輪金メダル・公式戦203連勝)**

どんなに柔道で頑張ってもチャンピオンになっても、人生のチャンピオンになれるかどうかは分からない。大事なことは頑張ったことを人生に生かすこと。

**ウルフ・アロン(了徳寺職員・世界選手権金メダル等)**

- ①これをやったら勝てるという正解はない。
- ②押し付けられて練習をやるよりも、自分で考えて練習する方が強くなる。

**古賀稔彦(古賀塾・バルセロナ五輪金メダル)**

- ①練習で限界を超えた自分を知っておかなければ、本番では勝てない。
- ②成功する人間とそうじゃない人間との違いは、体力の差でも、知識の差でもない。意志の差だ。
- ③あきらめからは何も生まれない。1%の可能性でも見出そうと壁に向かったときこそ、自分の中に秘められた新たな力が出てくる。

**斎藤 仁(元国士館大監督・ロス・ソウル五輪金等)**

- ①エベレストには登ったのに富士山には登っていない。(五輪金を獲得しながら全日本決勝では2年連続決勝敗退したことからの言葉)
- ②100%稽古できない奴は試合に出る資格がない。

**大野将平(旭化成・リオ五輪金メダル)**

自分が10あるうち1の力しか出せない。そして相手が10の力を出してきた。それでも勝てる圧倒的な差を付けていかなければならない。

**井上康生(全日本監督・シドニー五輪金メダル等)**

- ①強い選手、のし上がっていく選手というのは、負けた悔しさをその後十分に生かす、忘れない。そういう選手が一流の選手だと思います。
- ②練習だけでなく日頃の生活の気持ちや態度をしっかりしてこそ大舞台で勝てる。
- ③最強の柔道家にはなるな、最高の柔道家を目指さなければならない。

## 頼もしき助っ人現る！卒業生が指導応援(古都愛海さん)



寒川町出身  
浜岳中⇒三浦学苑  
⇒東海大

新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、平塚柔道協会の卒業生が稽古をサポートしてくれています。

**古都愛海先輩(東海大4年)**は、小学生、中学生の稽古に参加してくれ、子供達と近い距離で丁寧に指導してくれています。これまで、当協会には女性コーチが少なかったところ、今般、古都さんが指導に参加してくれていることは、大変ありがたく、今や貴重な存在になりつつあります。女子からも大変な人気で、まさに「頼れるお姉さん」的存在です。笑顔が素敵な先生のおかげで更に良いチームになれると感じています。古都さんの指導には大いに期待しています。

**(9月の予定) 原則 (火曜日)と(土曜日)の 19時 ~ 21時 になります。**

**(雑感) ~半沢直樹~** 今年一番のヒットテレビ番組はなんと言っても「半沢直樹」。「倍返し」「施されたら返し返す・恩返しです。」「おしまいDEATH」等、数々の流行語が生まれ、社会現象になった。展開がとにかく面白く、あっという間に最終回を迎えた。半沢のエネルギーの源は、復讐(前シリーズにおける大和田の土下座で果たしたが)と「反骨精神」であり、そして何よりも銀行マン(バンカー)としての理想(社会成長の手助けすべき役割)の具現化にあったと感じた。柔道が強くなるため、人間として成長するためにも、良い意味での「反骨精神と理想」は重要であると感じた。(五)

今月の目標・

組み手を制するものが試合を制する。自分は有利に、相手が不利になる組み手が理想